

京都大学大学院教育学研究科  
教育実践コラボレーション・センターE.FORUM  
学力評価スペシャリスト研修  
第2回 フォローアップ研修  
C.「目標に準拠した評価」の実現

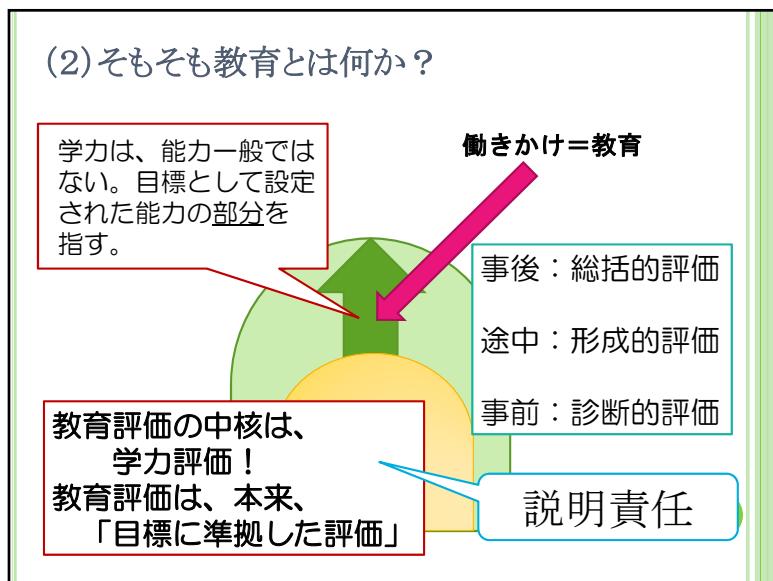
2017年12月16日  
京都大学 西岡加名恵

## 1. 「目標に準拠した評価」の意義と課題 (1) 教育評価とは何か？

- ① 教師が学習者(児童・生徒・学生)の能力を評価する。
- ② 教師が学習者の学力を評価する。
- ③ 教師が自分の教育実践を評価する。
- ④ 社会が学校の教育を評価する。

※何番が正解でしょうか？

→教育を評価するのが、教育評価。  
→教育評価は、教育を改善するためのもの！



## (3)「目標に準拠した評価」の導入 ←2001年改訂指導要録

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| ○指導の前に、目標を明確にする       | △目標・評価規準(基準)をどう定めればいいのか？ |
| ○目標と照らし合わせて評価する       | △どんな評価方法を用いればいいのか？       |
| ○指導を改善する（「指導と評価の一体化」） | △目標に教育が縛られる？             |
| ○すべての子どもに学力を保障する      | ～ゴール・フリー評価<br>羅生門的アプローチ  |

## 2. 学力評価計画の立て方

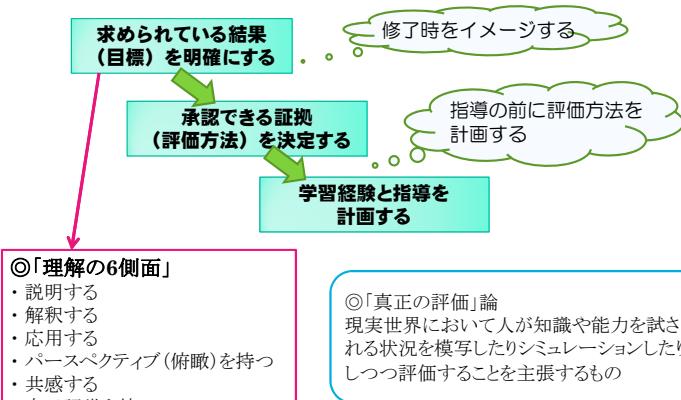
### (1) “目標分析”の問題点

	単元1	単元2	単元3	…	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	…	合計・平均
思考・判断・表現	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	…	合計・平均
技能	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	…	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	…	合計・平均

### ◎問題点

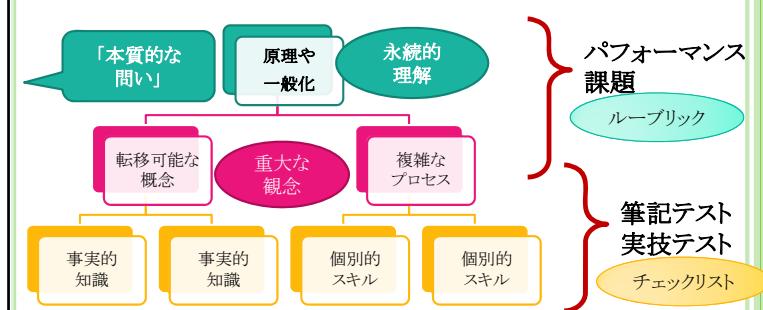
- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。  
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！  
←形成的評価(授業改善のための評価)と総括的評価(指導後の状況を記録するための評価)の区別がついていない。

### (2)「逆向き設計」論



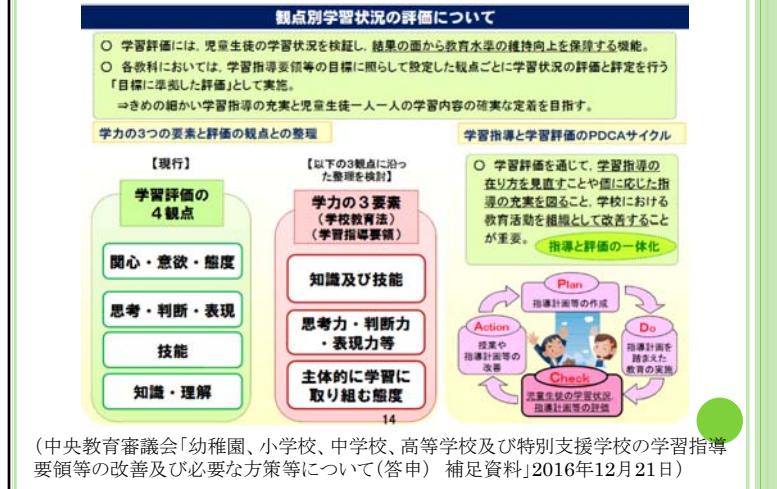
(G・ウィギンズ & J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

### ◎「知の構造」と評価方法・評価基準



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年、p.82。McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

### (3) 2017年改訂学習指導要領に対応する 学習評価のあり方



### ◎パフォーマンス評価、ポートフォリオの活用

○ 資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

### ◎「主体的に学習に取り組む態度」

- 「学びに向かう力・人間性等」に示された資質・能力[のうち]、感性や思いやり等については観点別学習状況の評価の対象外とする必要がある。
- 評価の観点のうち「主体的に学習に取り組む態度」については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行なながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

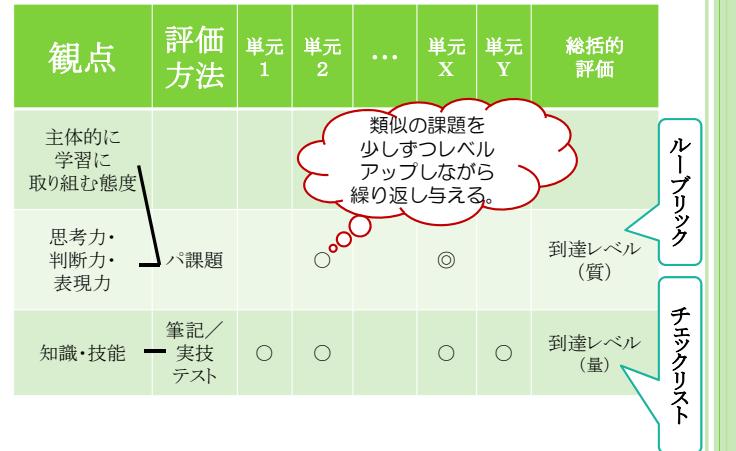
◆お勧め：田中耕治「関心・意欲・態度問題にこたえる」同『学力評価論の新たな地平』三学出版、1999年、pp.99-110

### ◎観点別評価のあり方

- これらの観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で、学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。
- 学習指導要領改訂を受けて作成される、学習評価の工夫改善に関する参考資料についても、詳細な基準ではなく、資質・能力を基に再整理された学習指導要領を手掛かりに、教員が評価規準を作成し見取っていくために必要な手順を示すものとなることが望ましい。そうした参考資料の中で、各教科等における学びの過程と評価の場面との関係性も明確にできるよう工夫することや、複数の観点を一体的に見取ることも考えられることなどが示されることが求められる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

#### (4) 学力評価計画の立て方: “三次元モデル”



#### ◎学力評価計画を評価する視点

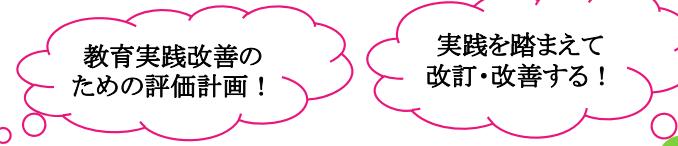
◆カリキュラム適合性 ←妥当性

◆比較可能性 ←信頼性

◆公正性:

平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、  
公表と承認の原則

◆実行可能性



(西岡加名恵「教育評価の方法原理」  
田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)

#### ◎注意: 観点別評価の観点と、ループリックの観点とは、区別しましょう。

	因果関係を捉える思考力	資料活用力
5	社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から3つ以上の視点ができる。これらの視点を総合的に関連づけて分析し、最適で詳細かつ具体的な主張を組み立てる。	観点 (分けなくても可)
3	社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から2つ以上の視点ができる。これらの視点を関連づけて明確な主張を述べる。	記述語 (規準と徴候)
1	経済・文化・人口・資源などの社会的・経済的情勢を読み取る。	尺度 (数レベル程度)

#### 3. 様々な書式の例

##### (1) E.FORUM 単元設計テンプレート (参考書式)

単元設計テンプレート (参考書式)	
1	2
単元設計名: 単元指導要領との関連内容	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100
101	101
102	102
103	103
104	104
105	105
106	106
107	107
108	108
109	109
110	110
111	111
112	112
113	113
114	114
115	115
116	116
117	117
118	118
119	119
120	120
121	121
122	122
123	123
124	124
125	125
126	126
127	127
128	128
129	129
130	130
131	131
132	132
133	133
134	134
135	135
136	136
137	137
138	138
139	139
140	140
141	141
142	142
143	143
144	144
145	145
146	146
147	147
148	148
149	149
150	150
151	151
152	152
153	153
154	154
155	155
156	156
157	157
158	158
159	159
160	160
161	161
162	162
163	163
164	164
165	165
166	166
167	167
168	168
169	169
170	170
171	171
172	172
173	173
174	174
175	175
176	176
177	177
178	178
179	179
180	180
181	181
182	182
183	183
184	184
185	185
186	186
187	187
188	188
189	189
190	190
191	191
192	192
193	193
194	194
195	195
196	196
197	197
198	198
199	199
200	200
201	201
202	202
203	203
204	204
205	205
206	206
207	207
208	208
209	209
210	210
211	211
212	212
213	213
214	214
215	215
216	216
217	217
218	218
219	219
220	220
221	221
222	222
223	223
224	224
225	225
226	226
227	227
228	228
229	229
230	230
231	231
232	232
233	233
234	234
235	235
236	236
237	237
238	238
239	239
240	240
241	241
242	242
243	243
244	244
245	245
246	246
247	247
248	248
249	249
250	250
251	251
252	252
253	253
254	254
255	255
256	256
257	257
258	258
259	259
260	260
261	261
262	262
263	263
264	264
265	265
266	266
267	267
268	268
269	269
270	270
271	271
272	272
273	273
274	274
275	275
276	276
277	277
278	278
279	279
280	280
281	281
282	282
283	283
284	284
285	285
286	286
287	287
288	288
289	289
290	290
291	291
292	292
293	293
294	294
295	295
296	296
297	297
298	298
299	299
300	300
301	301
302	302
303	303
304	304
305	305
306	306
307	307
308	308
309	309
310	310
311	311
312	312
313	313
314	314
315	315
316	316
317	317
318	318
319	319
320	320
321	321
322	322
323	323
324	324
325	325
326	326
327	327
328	328
329	329
330	330
331	331
332	332
333	333
334	334
335	335
336	336
337	337
338	338
339	339
340	340
341	341
342	342
343	343
344	344
345	345
346	346
347	347
348	348
349	349
350	350
351	351
352	352
353	353
354	354
355	355
356	356
357	357
358	358
359	359
360	360
361	361
362	362
363	363
364	364
365	365
366	366
367	367
368	368
369	369
370	370
371	371
372	372
373	373
374	374
375	375
376	376
377	377
378	378
379	379
380	380
381	381
382	382
383	383
384	384
385	385
386	386
387	387
388	388
389	389
390	390
391	391
392	392
393	393
394	394
395	395
396	396
397	397
398	398
399	399
400	400
401	401
402	402
403	403
404	404
405	405
406	406
407	407
408	408
409	409
410	410
411	411
412	412
413	413
414	414
415	415
416	416
417	417
418	418
419	419
420	420
421	421
422	422
423	423
424	424
425	425
426	426
427	427
428	428
429	429
430	430
431	431
432	432
433	433
434	434
435	435
436	436
437	437
438	438
439	439
440	440
441	441
442	442
443	443
444	444
445	445
446	446
447	447
448	448
449	449
450	450
451	45

## (2) 京都市立衣笠中学校(当時)の単元学習指導案 (森千映子先生提供)

(Cf. 北原琢也編著『特色ある学校づくり』とカリキュラム・マネジメント(三学出版、2006年))

### (3) 京都府立 園部高等学校

## ◎評価基準

## 長期的ループリンク

チェックリスト

(Cf. 西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子・京都府立園部高等学校附属中学校編著『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』学事出版、2017年、p.56)

### (3) 京都府立園部高校 ◎年間指導計画

書道部英語実践年間クラス		科目：英語	学年・級：1年1・2組（SS）	テキスト：Green English Course_上	達成度の判断基準：点	担当者：坂上・永井妙子・田中容子
最高得点	最低得点	最高得点	最低得点	最高得点	最低得点	最高得点
学年での割合						
目標達成しない場合は、該年度の評価を下げる。その他の場合は、該年度の評価を上げる。						
<b>重点目標↓</b>	<b>下位目標↓</b>	<b>1)</b>	<b>2)</b>	<b>3)</b>	<b>4)</b>	<b>5)</b>
①日本語の発音と文法を理解する。 ②英語の発音と文法を理解する。 ③英語で会話をできる。 ④英語で文章を書くことができる。 ⑤英語で論述文を書くことができる。 ⑥英語で論述文を書くことができる。 ⑦英語で論述文を書くことができる。 ⑧英語で論述文を書くことができる。 ⑨英語で論述文を書くことができる。 ⑩英語で論述文を書くことができる。						
使用するリスト	評議会用リスト	使用するリスト	評議会用リスト	使用するリスト	評議会用リスト	使用するリスト
→	→	→	→	→	→	→
<b>その他の パフォーマンス評価方法 ス課題↓</b>						

(京都府立園部高等学校 坂上涉先生・永井妙子先生・田中容子先生提供。西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子・京都府立園部高等学校附属中学校編著「パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる」学事出版、2017年、p.19)。

#### (4) 乙訓スタンダード作りの取り組み

◎乙訓地方中学校長会の決定(2011年度)

学校間での評価について、統一的なルールを定めること、および改訂・改善を重ねていくことを決定

#### ○ アンケートの実施

→全教員の意見を集約してルール作り

## ◎「思考力・判断力・表現力」についてのテスト問題の検討 (2012年度)

#### ◎「乙訓スタンダード」に関するアンケートの実施

共同で問題・課題づくり(2013年度)

#### ◎パフォーマンス課題の実施、交流(2014年度)

→テンプレートの共有

### ◎パフォーマンス課題の事例集の作成(2015年度)

(Cf. 盛永俊弘『子どもたちを“座標軸”にした学校づくり—授業を変えるカリキュラム・マネジメント』日本標準、2017年)

#### (4) 乙訓スタンダード

京都市立衣笠中学校の校長(当時)  
北原琢也先生考案

#### ◎観点別評価から評定へ変換するルール

- ◆ 学力構造を配慮して、ありえないA・B・Cの組み合わせはつけない。  
例。「A, C, C, C」(「関心・意欲・態度」だけA?!)
  - ◆ 「観点別学習状況」欄の評価を、「評定」に変換するルールを決める。

(北原琢也編著『特色ある学校づくり』とカリキュラム・マネジメント』三学出版、2006年 pp.50-51)

A・B・Cの組み合わせを、  
重みづけも勘案しつつ、  
%に変換

A・B・Cの組み合わせ  
から自動的に変換

#### (4) 乙訓スタンダード

## 神原一之先生の考案 (石井英真先生との共同研究)

### ◎「年間指導計画」の書式

(神原一之「『数学する』学習を実現する単元と年間カリキュラムの試案」石井英真「『教科する』授業を目指す中学校教育のデザイン——パフォーマンス評価を通して授業とカリキュラムを問い合わせ直す」科学研究費補助金 若手研究(B) 研究成果中間報告書、2011年、P.129)

口語評價

評価項目と  
評価方法

#### (4) 乙訓スタンダード

## 【評価計画Ⅱ】観点別評価の付け方と「評定」への 変換ルール表

### ●記入例（イメージ）

## 換ルール、重みづけ

「評定」	学力実験	乙類数学 校長考査の結果 (甲等 2年 (2月)
5	その学年で期別される水準はむかに上昇。積んで貯めた学力を身につけており、また徳を養う意図も理解し、課題を自己作成して取り組むことができる。	90%
4	その学年で求められている必須項目（目標のうち特に重要なもの）が十分に達成されており、既存の高い標準、課題にも自信をもって、自律的に取り組むことができる。	80%
3	その学年で求められている必須項目（目標のうち特に重要なもの）が達成されており、次年度でも問題なく学業についていけると予測される。	50%
2	その学年で求められている必須項目（目標のうち特に重要なものの達成に不十分なものが見られる。	30%以上
1	その学年の必須項目の大部分が実現できておらず、集中的な支援が必要である。	30%

↑「評定」用ループクリック

評定

「評定」用ループクリック

↑「評定」用ループリック

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.267)

●記入例（イメージ）	↓ 変換ルール、重みづけ
「評定」への	5 : 90%以上 2 : 30%以上 4 : 20%以上

### (5) 年間学力評価計画表

↓評価の観点↓ ↓単元との対応

## ↓長期的ループリック

(三藤あさみ「検討会で関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価 中学校』学事出版、2009年。書式の考案は宮本浩子先生による。Cf. 宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、pp.136-137)